

### 第3回 地域づくりビジョン審議会 議事録（発言内容まとめ）

・日時：令和5年2月27日（月）  
19時00分～20時30分  
・場所：問寒別生涯学習センター

#### [出席者(敬称略)]

##### 審議会委員

阿部 由裕／遠藤 雅樹／遠藤 稔／大内 寿晃／坂本 太一／  
高木 健太郎／橋元 誠／森崎 英典／芳野 福一／和田 和子  
オブザーバーその他

幌延町議会議員 齋賀 弘孝

幌延町議会議員 西澤 裕之

(株)まちづくり計画設計 松村 博文

合同会社メモトック 安東 勇人

合同会社メモトック 森 健人

(地独)北海道立総合研究機構 石井 旭

(地独)北海道立総合研究機構 小野塚 仁海

エスエーデザインオフィス一級建築士事務所 小倉 寛征  
事務局（幌延町役場）

[傍聴人数] 0名

- 1 開会挨拶（副委員長）
- 2 お集まりの皆様へご挨拶（角山課長）
- 3 前回いただいたご意見等の整理・ビジョンへの反映（山下室長）
- 4 地域づくりビジョン原案について（まち計松村氏）
  - ・将来像の考え方、整理
  - ・当日配布したビジョン本編について説明
- 5 今後の流れについて（山下室長）
  - ・審議会のスケジュール変更、ご意見用紙について
- 6 講評（野々村町長）
- 7 閉会挨拶（副委員長）

## 1. 開会挨拶（副委員長）

委員長が突然亡くなってしまった。委員長は、今の時代海外と言っても珍しくないが、50数年前にイスラエルに1年間海外研修に行き、最先端の技術を学び、その後農協の職員として農家の人たちと共に問寒別の農業振興を引っ張ってきた。

地区が栄えていた時代も見てきた人なので、これから過疎の中で地域をどうやって作っていかうかと心配していた。そういった想いを尊重しながら、この審議会を行っていきたい。

## 2. お集まりの皆様へご挨拶（企画政策課角山課長）

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。持続的な地域づくりを進めるということで、皆様にご協力いただき、これまで2回の審議の中で、問寒別の将来像がどうあるべきかという部分を議論してきた。なおかつ地域の懇談会を通じて、さらにご意見を付け加え、本日はビジョンの素案をまとめたので、その内容について議論いただきたい。完成までもう一息というところまで来ているが、良いビジョンにするために引き続きよろしく願います。

## 3. 前回いただいたご意見等の整理・ビジョンへの反映（地域対策室山下室長）

第2回の審議会でビジョンの概要版を提示し、様々な意見をいただいた。それを整理し反映した。

前回いただいた意見（第2回幌延町地域づくりビジョン審議会での意見について）

1-1 といかん・みんなの市の次を望む声が出ている。

→地域の魅力再発信のため、続けていきたい

1-2、8 住まいについて、様々な需要や課題がある。

→住まいの見守り機能、また通勤者や移住者の需要を汲んでいきたい

1-6 人が集まるために、内外へ様々な情報発信が必要では？

→人がいないことに対して、自分ごと地域運営プロジェクトで地域に魅力を感じられる人が集まれるように情報発信を続けていく

1-10 問寒別は移住を受け入れてくれる寛大な人が多いイメージ

→「受け入れ力の持続・向上」をビジョンに盛り込んだ

1-13 移住者と定住者の接点がない

→ごちゃまぜプロジェクトとして、たまり場となる場所を作っていく

1-11 地域づくりでは、産業が元気なのが一番重要

→基幹産業の下支えのために、役場だけでなく地域ができることを検討する

- 1-12 子供たちは地域が好きで、それは地域の住民の見守りがあってこそ  
→未来につなぐ子供たちの思いもビジョンに組み込み、問寒別らしい子育て環境を反映する
- 1-3 ビジョンはまとまっているが、やるは難し  
→推進方策の中で、都度修正しながら取り組んでいく。
- 1-7 地域の中で他人事ではなく住民が切に考えてビジョンを考えなければ  
→ビジョンの具体化の中で、すべてを同時に実施するのではなく、アンケート等も活用し優先順位をつけていきたい

#### 地域運営組織について

- 2-1 住民が地域運営を行う上では、事故の対応や資格の問題は避けられない。  
仕事としてやるからには責任が伴う。  
→仕事に対して事故の対応や資格有無など、やるべきことを整理して事業者と運営組織ですみ分けもしつつ考えていく
- 2-2 特定の人への負担が集中するのではないかという声もある  
→特定の人に負担が行かないような進め方、見せ方をしていきたい
- 2-3 地域運営組織は移住者がメインで担うと思うが、地域の思いは移住してすぐの人がくみ取れるのか  
→地元の人と移住者の融合を考えていきたい
- 2-4 地域で雇用を生むのは難しいのでは？  
→役場の仕事を委託されることで安定収入にする
- 2-6 役場は事業委託した後はどのような役割を担うのか  
→役場の機能は、委託事業の後方支援になる
- 2-7 地域で必要なことは、町内会などが現状になっている。人が少なくなっているが何とか維持している。  
→活動を維持できるよう、地域運営組織として応援できる仕組み考える
- 2-10 老人クラブなど、既存の団体などでも維持が難しくなっているものもある  
→地域運営組織が代替する担い手にもなりうる

#### 4. 地域づくりビジョン原案について（まちづくり計画設計松村氏）

ビジョンの本編（暫定版）をもとに、松村氏より特記事項をかいつまんで説明。

#### これまでの活動（3ページ）

- ・2021年以前の活動も含めて載せている。
- ・本音トークが8回開催された中で、果樹園やといかん市、視察など、メリハリつけて活動をつづけてきた。

- ・子どもワークショップを開催した（79ページ）。その結果、集落内の様々な場所が挙げられた。その中でも商店が挙げられたのが印象的だった。商店は上の世代にとってだけ重要と思われがちであるが、地域の子どもたちにも機能を果たしている。
- ・子どもワークショップでは、一番好きが選べないという意見が印象的。すなわち地域の子供たちが様々な活動をしているということの表れでもある。

## 現状（9ページ）

### 困っていること

- ・人口減少や高齢化、世代の偏在がもたらす問題を具体化して記載した。
- ・産業や商店、利用者が少ないが必要である地域交通の維持も課題である。
- ・民賃や移住、定住、研修住宅の不足、住み替え住宅の需要などもある。

### 良いこと

- ・子どもは地域で育む。団結、外からの人を受け入れる力などは他地域に無い特色がある。
- ・産業の多様さや交流人口の多さ、大自然や秘境駅などの地域資源、新たな働き方や、外からの移住者のもたらす新たな視点など、様々な特色が挙げられた。

## 課題の整理（13ページ）

- ・受け入れ力があることが都会ではない価値。
- ・資源を生かしたプチビジネスの可能性。
- ・維持が難しくなる町内会を支えていく仕組み。
- ・役場も人が減らされている中でどう機能を維持できるか。
- ・プチ雇用のマッチング。
- ・関係人口を巻き込んだコミュニティを形成できないか。
- ・みんなの居場所として拠点が必要。助け合いや交流の拠点になるし、みんなのやりがいのある場所にもなる。

## 将来像の策定にあたって（17ページ）

- ・住民懇談会、事務局、アンケートなどさまざまな方法で意見を収集し、案を作っていた。
- ・アンケートの結果と懇談会で出てきたアイデアをまとめている（一つには絞っていない）

## 7つの基本計画（具体的計画）（21ページ）

- ・すべてを同時に行っていくのではなく、やっていく中で都度修正、変更しながらやっていく
- ・それぞれの計画について、考え方→取り組みの具体例の構成で記載されている

#### 基本計画を受けて推進方策（28ページ）

- ・推進体制として、自由で柔軟な懇談会の継続をしていく。また懇談会をはじめ、各プロジェクトは都度できる人で推進する。
- ・具体的に推進していくときに心に持っておくこととして、やってみる。
- ・優先順位を考える
- ・無理せず少しずつ進む
- ・いつでも参加できるように発信する
- ・といかんの良さを常に意識する（忘れない）
- ・子供の未来を考える

#### 地域運営組織の機能（30ページ）

- ・役割を固定せず、その時その時で必要なことをやっていく

◎最後にといかんの未来の道しるべとして、子どもたちの思う地域の好きなこと、どんな問寒別にしたいかを載せている。

#### （北総研石井氏）

- ・ビジョンに載っている取り組みは、決してこれから新しい取り組みをやろうというよりはこれまで地域が大事にしてきた活動を今の時代に合わせてどう変えていくかというのが趣旨。
- ・他の団体や地域の関係人口等、色々な立場の人がどのように地域活動に参画できるかの在り方を考えるのがビジョンの役割でもある。
- ・役場は最大の人数、最大スベックに合わせる、平等性などの観点から、地域の実情に合わなくなる可能性がある。地域が担うことで、より柔軟にきめ細かく、地域に合わせて活動していくことができる。
- ・ここにいる全ての方が住民懇談会にいらっしゃっているわけではない。各プロジェクトも自分ごととして捉えていただきたい。
- ・また、やりたいことに対してやれる環境を整えることも、委員や個人として手伝っていただければ。
- ・将来像の3案も、地域の特徴を様々な観点からとらえられていて甲乙つけがたい。

## 5. 今後の流れについて（地域対策室山下室長）

- ・まだ埋まっていない「ビジョンの将来像」については、次回に向けて決めていく。
- ・審議会については、本来3回で終了するはずだったが、今回初めてビジョン本編をお配りしたような形になり、かなりボリュームがあるため、終了後改めてお読みいただき、3月末の第4回までに意見を収集する期間を設けさせていただければ。
- ・地域ビジョンは概要編、本編、資料版の3つになる予定だが、資料編はまだ完成していない。
- ・ご意見を次の審議会までに伺いたい。ご意見用紙を使っても、電話でも構わない。
- ・順調にいけば最後の審議会を経た後、答申を行う。
- ・意見については3月の中旬ごろまでに提出いただきたい。欠席委員には後日郵送する予定。

## 6. 講評（野々村町長）

夜分の貴重な時間に審議会のためにお集まりいただき、大変感謝申し上げます。それぞれの会議で地域の多岐にわたるお話があり、一つにまとめあげていくのが難しい状況の中で、少しずつまとめられてきていると思う。

ただ、計画を作ることが大切なのでなく、この地域に我々が住み続けていきたいと思える地域にしていきたいという想いをどのように実行していけるかだと思うので、ぜひともそれぞれのコメントをいただきたい。

本当は3回で完成させるはずだったが、もう1回ご足労をおかけすることになるかと思うが、ご協力いただきたい。

基本計画を、欲の張らない、肩の張らない、自然体の中で実行できるようなものにしていければと思う。問寒別に住んで良かったと思ってくれる子どもが1人でもいることを願わずにはられない。そういう問寒別地区になっていくよう、ご意見等いただき、第4回に審議いただくことをお願い申し上げます。

## 7. 閉会挨拶（副委員長）

これが絵に描いた餅で終わらないように、誰かがやってくれるというのではなく、私たち地域住民も問寒別を良くするために頑張っていけないといけない。